

## Cipher の delivery に苦慮した一例

症例は70代男性。労作性狭心症にて入院。RCAの#2～#3に高度の石灰化を伴った type C lesion を認めたため、cypher 留置の方針となった。

### 手技経過：

wire 通過後 3.0 の balloon で predilatation を施行。続いて、#3 distal に cypher3.0/33 留置を試みたが、#2 mid で引っかかり delivery が出来なかった。D-wire strategy を行うも delivery 不能。#3 の狭窄を cover するのを一旦諦め、#2～#3 proximal に cypher3.0/33 を留置した。

しかしながら、#3 distal に狭窄が残存したため、cypher3.0/18 を選択。delivery を試みたが #2 distal で引っかかり通過しなかった。

### Discussion：

Proximal に留置した stent に引っかかり、D-wire を行っても distal 病変への delivery が困難となった症例。

対策としては

- ガイドかテールをより back up の強いものに変更する。

- support wire を使用。

- 5 Fr 小カテを挿入しより強い back up を期す。

- anchor technic による back up の強化

などが考えられた。

### 結果：

すでに wire が2本挿入されていたため、balloon と cypher を同時に挿入。distal の狭窄部位で balloon を inflation し、これを anchor としてガイドかテールの back up を強化。Cypher の delivery に成功した。